



デジタルカメラ

上手な写真の撮り方

主催 相模原の環境を良くする会

講師 写真家 高橋ぎいち

撮るものを見つける力

どういう時に写真を撮りますか？

- ・夕焼けを見て「わー きれいだ…」と思ったとき
- ・ペットを見て「わー かわいい…」と思ったとき
- ・子供や孫の運動会で「がんばれ…」と思ったとき
- ・他にも楽しい、うれしい、ありがとうに出会ったときなど色々あると思います。

この出会いを「感動」と言います。

つまり、写真を撮ることは感動を伝えることなのです。

カメラについて知る

失敗をしないために大事なこと（失敗の多くはブレなのです）

- ・カメラの持ちかた・両手でしっかり握り、両脇を引き付けて動かないように持ちましょう。右手で握ると感じがわかる。（コンパクトデジタルカメラの場合）
- ・シャッターの押しかた・押す時に指でカメラを動かさないように指先でシャッターを静かに押しましょう。
- ・ちょっと待つ・写真はシャッターを押してすぐには撮れません。タイムラグと言う時間差がありますのでそのままシャッター音がするまでちょっと待ちます。

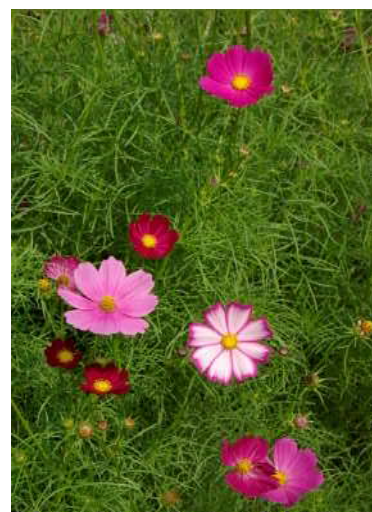
カメラのことも少し覚えて（4つのなーに）

- ・ISO感度ってなーに・・・撮像素子（これまでのフィルム）に画像を写す場合、一定量の光が必要となります。ISO感度数値を大きくすることで必要な光の量を減らし、そのエネルギーを絞りやシャッタースピードに充てることができます。ISOオートもあります。
- ・ホワイトバランスってなーに・・・基準は太陽光の晴に合わせますが、曇りの日・朝夕・白熱灯下・蛍光灯下など光源の種類で色調が変わりますので、自然色で撮りたいとき光源の種類マークに合わせて撮影します。オートホワイトバランスもあります。
- ・ピクチャーコントロールってなーに・・・お花の色を鮮やかに撮りたい。ここでは普通の色味で良い。肌色をきれいに撮りたい。など撮影するときの仕上げの印象に合った色味を選択することができます。
- ・露出補正ってなーに・・・明るさを変えることを言います。撮った写真が明るすぎたり暗すぎたりした時に明るさを調整してもう一度撮り直すことができます。

大切なことは撮った後でモニターを見ることです。モニターを見るとピントが合っていない。人が目をつぶっている。など失敗に気付いて撮り直すことができます。

レンズのことも知ってから

- ・ズームレンズってなーに・・・ボタンまたはレバーを操作し、1本のレンズで画面を広く（広角）写したり、画面を狭く（望遠）写したりできます。これがズームレンズです。近すぎて全部入らないときは広角にすると広く写すことができます。遠くでもものが小さい時は望遠にすると大きく撮れます。その時々で使い分けると思った画角の写真を撮ることができます。



上手なズームレンズの使い方（これができたらプロ級！）

- ・以上の説明は画角についての説明ですが、以下更に高度の使用方法を説明します。レンズはその度合いにより 標準レンズ 広角レンズ 望遠レンズに分けられます。は前後に写り込んだ被写体の距離感が目で見た距離感に近くなります。更に写り込む角度は人が凝視した時に近似していると言われています。よって標準レンズと言います。結果、事象を「現実的」に表現できる。
- ・は前後に写り込んだ被写体の距離感が目で見るより大きく（誇張されて）見えます。結果、事象を「粗」に表現できる。
- ・は前後に写り込んだ被写体の距離感が目で見るより小さく（圧縮されて）見えます。結果、事象を「密」に表現できる。

写真で伝えたい事柄によりこれらの特徴を使用して作品を作っていきます。これが本来のレンズの使い方です。

加えてレンズにはピントを合わせた前後にボケを創る度合いを調節する機能があります。この場合に絞りを操作します。(コンデジはない場合も)レンズの中に組み込まれた光を取り込む窓のことです。

絞りの数値を小さくするとボケは大きくなり、大きくするとボケは少なくなります。また、レンズの特性で広角レンズはボケにくく、望遠レンズはボケを創りやすいものです。このボケのコントロールも作品の印象を大きく左右する要素を含んでいます。

接写ってなーに

昆虫やお花を近づいて大きく撮りたいと思ったことはありませんか。このような撮り方を「接写」と言います。

- ・カメラに接写モード「お花のマーク」がある場合はこれを選択します。
- ・ピントが合う範囲で被写体に近づきます。
- ・使用レンズが広角か望遠かで大きさが変わる場合があります。
- ・ピントをどこに合わせるかを決めてこれを確認します。
- ・しっかりとホールディングします。
- ・シャッタースピードを確認しましょう。

撮影の時間

感動を見つけに出かけましょう。

- ・自分なりに自由に見つけてみましょう。
 - ・ほかの人と同じものを見つけようと思わなくて良いのです。
 - ・自分だけのものが見つかったら素晴らしいことです。
- 見つけたものは自分だけのものと自信をもつことが大切です。

